

# 急な激しい頭痛にご用心

神戸掖済会病院

脳神経外科医長 安尾 健作

## 1. はじめに

頭痛を経験したことのない人はいないと思います。多くは一時的な痛みで、いつの間にか治ります。激しい頭痛で吐き気や意識障害を伴うと病院を受診しますが、緊急治療を要するような病気でも、我慢できる程度の痛みで治まってしまう場合には、診断が困難なケースがあります。

## 2. 激しい頭痛を起こす病気

激しい頭痛を起こす病気には、次のようなものがあります。

くも膜下出血

脳動脈解離

髄膜炎

片頭痛

群発頭痛 など

## 3. 緊急治療を要する激しい頭痛

緊急治療を要する脳の病気で思いつくのは脳梗塞<sup>こうまく</sup>、脳内出血ではないでしょうか。しかし、意外にも頭痛を伴わないことが多いのです。脳梗塞や脳内出血のうち、まひや言語障害を起こすものは、頭痛の有無にかかわらず、緊急治療を必要とします。逆に、まひや言語障害がない脳梗塞や脳内出血は、放置しておいて良いものではありませんが、緊急性は低いと言えます。

頭痛を伴う病気で最も怖いものは、くも膜下出血です。くも膜下出血は脳出血の一つですが、通常はまひがありません。ほとんどの場合は、意識障害や激しい嘔吐<sup>おうと</sup>を伴いますので、救急車で運ばれることとなります。しかし、軽症のくも膜下出血の場合

「昨日頭痛がした」からと自分で車を運転し、来院されるような場合があります。よく話を聞いてみると「今までにない頭痛」を経験されています。発病率は人口 10 万人あたり年間 10～20 人と高くはありませんが、死亡率の高い病気です。年齢とともに確率は高くなります。脳動脈瘤<sup>りゅう</sup>が主な原因ですが、出血予防の治療が可能です。

2つ目に、脳動脈解離<sup>くわい</sup>といって脳神経の専門医師でも診断が困難な病気があります。「動脈解離って何？」と思われる方が多いでしょう。簡単に言うと、血管が裂けていく病気です。肉眼で見えるような太さの動脈の壁には痛みを感じる神経があり、血管が裂けると痛みを感じます。

動脈の壁は内膜、中膜、外膜と 3 層の構造でできています。内膜や中膜が裂けると、動脈の壁内（解離腔<sup>くわい</sup>と言います）に血液が流れ込みます（図 1）。解離腔は、血液の流れる本来の血管腔<sup>きょうさく</sup>を狭窄させます。脳動脈の狭窄が進めば、頭痛とともに脳梗塞を引き起こします。また薄くなった外膜が破れると脳出血となります。脳梗塞や脳出血を起こしてしまうと、診断は簡単になりますが、後遺症も大きくなります。

このように動脈が裂けることは脳のいかなる血管にも起こり得るのですが、椎骨脳底動脈という首の後ろにある血管が裂けやすく、後頭部痛を生じます（図 2）。急に強烈な痛みが出現し、数日間続くことがあります。裂ける現象が止まると痛みは治まりますが、血管壁はもろくなっているため、しばらくしてから梗塞や出血が起きることがあります。原因は動脈硬化のみならず、頭や首の外傷によっても起こる可能性があります。

3つ目は髄膜炎です。細菌性、ウイルス性、無菌性と原因はさまざまです。高熱や吐き気が伴います。自然に治癒することも多く、重症な場合でも治療薬の進歩で、ほとんどが後遺症なく治ります。

#### 4. 激痛だが生命の危険性のない頭痛

片頭痛は、軽いときと激痛のときがあります。激痛であっても生命の危険性はありません。頭痛のないときは何の支障もなく家事や仕事ができますが、ひとたび痛みだと何もできなくなってしまいます。特徴として①血管性の頭痛であり、心臓の鼓動と一致しズキズキする②若い女性に多く、加齢とともに治っていく③母親も片頭痛であった一などが挙げられます。頭痛は、片側だけでなく両側に起こることもあります。

子供に起こることもあります。片頭痛は繰り返し起こる頭痛であるため、経験者は生命の危険性のない頭痛と認識できるようになります。最後に群発頭痛です。私も医師になって5年目の時に、初めて診察した記憶があります。

眼の奥がえぐられるように痛い、涙が出るとの訴えで男性が救急車で来院されました。教科書どおりの症状でしたので診断には悩みませんでした。教科書どおりの治療では症状は良くなり、困惑したことを覚えています。片頭痛の一種ですが、中年男性に多く眼の奥にえぐられるような激痛があり、涙が流れ眼が充血するのが特徴です。診断は容易ですが、激痛のときの治療は困難です。

## 5. 最後に

頭痛の原因は複雑で、この頭痛はこうすれば治ると簡単には分けることができません。しかし、激しい頭痛を経験した場合は、危険な病気が隠れている可能性があります。頭痛持ちの方でも、今までに経験したことのないような激痛のときは、かかりつけ医もしくは救急病院で診察を受けてください。頭痛が止まっても一度診察を受けてください。そして受診された際には「今までに経験したことのない頭痛」であることを強調してください。

神戸掖済会病院

〒655-0004

神戸市垂水区学が丘 1-21-1

TEL:078-781-7811

FAX:078-781-1511

URL:<http://www.kobe-ekisaikai.or.jp/>

图 1



图 2

